

令和5年 第11回

教育委員会定例会会議録

令和5年11月8日

中央区教育委員会

令和5年第11回教育委員会定例会会議録

開会日時 令和5年11月8日(水) 午後2時00分

場 所 中央区役所 8階 大会議室

出席委員 中央区教育委員会教育長 平林治樹  
委 員 渥美哲夫  
委 員 坂本順子  
委 員 小川将  
委 員 伊東佳子

説明のために出席した事務局職員

次 長 生島憲  
庶務課長 俣野修一  
放課後対策担当課長 黒田彰  
学務課長 鷲頭隆介  
学校施設課長 岡地貴志  
指導室長 小林傑  
統括指導主事 清水浩和  
幼児教育担当専門幹 中島由美子  
図書文化財課長 植木良則  
教育センター所長 熊木崇

説明のために出席した区長部局職員

文化・生涯学習課長 森下康浩  
スポーツ課長 鎌田智之

書 記 中央区教育委員会事務局

教育行政推進係長 一瀬知之  
教育行政推進係員 伊藤めぐみ

開 議 午後2時00分平林教育長開会宣言

会議規則第30条による署名委員

教 育 長 平林治樹  
委 員 坂本順子

- 日程第1 議案第48号  
中央区文化財保護審議会への諮問について
- 日程第2 報告事項  
各課事業報告について



坂本委員       ご説明ありがとうございました。まず、幼稚園のほうの応募状況について、一定の評価をいただいて、1,000人を超える方々の応募があったことにつながったと思っております。今、中央区としての打ち出している様々な施策との関連性といいますか、その辺りを、どういったことに主眼を置いてこちらを希望されたかとか、例えばアンケート等は取っておられるのか、また、取るような方向でお考えなのか、この辺りをお聞かせいただければと思います。

学務課長       幼稚園児の応募の時点では、ただいま委員からご指摘があったようなアンケートというのは取ってはいないところでございます。ただ、私ども、こうした預かり保育ですとか、弁当給食の費用対効果という部分については、今後検証が必要であるということは十分に認識しているところでございますので、一定の時期に何らかの方法で、そうしたアンケート等の実施を検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

坂本委員       ありがとうございます。入園後でもよろしいかと思うのですけれども、どういったことにニーズがあって、また、その施策が有効なのかどうかという検証に使っていくためにも、ぜひご検討いただければと思います。

もう1つだけ併せて、小中学校の選択ですけれども、城東小学校であるとか、銀座中学校、非常に多くの方々のご希望があるように伺っておりますが、なぜこのようなご希望になっているのかという辺りの分析、この辺りはどのようにお考えでしょうか。

学務課長       まず、城東小学校につきましては、やはり改築された小学校であるということで、ハード面を含めました子どもたちを取り巻く環境の部分に魅力を感じている方が一定数いらっしゃるということを考えております。

ただ、その数字で申しますと、昨年度は大分、今年度と乖離があった状況ではあるというところでございます。

私、個人的には、令和3年度の状況から、令和4年度の申込者が60人減っていたということがございますので、これはある程度、城東小学校を希望される方の数が減って、より地元志向になっていくものなのかと考えたところだったのですけれども、今年度の申込みの数を見ると、まだ必ずしもそうしたところまでは行き切れていないのかなと、城東小学校を申し込んだ方に限ったお話ではございますが、というところがございます。

また、やはり、学校の理数教育も進んでいるという点も魅力に感じていらっしゃる方が一定数いることは存じておりますので、そうしたハード・ソフト両面で城東小学校に魅力を感じている方がいらっしゃるかと考えているところでございます。

次に、銀座中学校についてでございますけれども、銀座中学校は、数について

は令和3年度から3年間で見た限りで申しますと、若干ずつ減となっているところでございますが、特に今年度につきましては、晴海西中学校に希望が一定数流れたものということは認識しております。

また、逆に申しますと、晴海西中学校の通学区域内から20名の方が銀座中学校を希望されていらっしゃるということは、やはり銀座中学校におけるこうした教育の環境という、内容という部分についても大変魅力に感じていらっしゃる方が多いものと認識しているところでございます。

この辺り、また晴海西中学校が開設した後の推移等についても十分確認を、追いながら、指導室と連携して、こうした環境の変化に取り組んでまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

坂本委員           ありがとうございます。ぜひ今後の検証にも生かしていただければと思います。

教育長             ほかにご質問ございますでしょうか。

小川委員           晴海西小学校については、現状、まだ引越されていない方もいらっしゃると思うのですが、通学区域等のその辺りの分析はできているのでしょうか。それと、城東小学校に希望が多く集まるというのは、施設面も考えると多分にあるかと思いますが、希望者全員が城東小学校に入学できるわけではないので、抽選に漏れてしまった方の第二希望の受け入れ等は把握されているのでしょうか。

学務課長           まず、晴海西小学校の通学区域についての部分で申し上げますと、晴海の三丁目、四丁目、五丁目に加えまして、パークタワー勝どきの部分が晴海西小学校の通学区域となるものでございます。

その点で申しますと、晴海三丁目、また五丁目については、ある程度大規模なマンションが既に建っていることもございますので、こうしたお子さん等が通学区域内に居住されているということで、勘案された方々のお申込みが反映されているものでございます。

その点で申しますと、既にもう居住をされている方々で、晴海西小学校の通学区域に当たる方のうちの、特認校のお申込みをされた方の数ということでご理解いただければと思います。

そして、この城東小学校を含め、抽選を行った上で、そこから漏れてしまった方々のご対応という点で申しますと、資料2の一番下の米印のところ小さく記載がございまして、今回抽選を行いますのは城東小学校、常盤小学校、阪本小学校の3校でございまして、泰明小学校と京橋築地小学校については、数はもう少し今後精査が必要になるところでございまして、若干名、また追加の受け入れに向けたご案内ができるものと考えているところでございます。

こうした部分で、特認校制度を活用しようという方々のうち、抽選に残念ながら漏れてしまった方々も、両校の魅力を感じている方がいらっしゃるのであれば、ぜひお申込みいただきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

小川委員 ありがとうございます。それと、もう1点なのですが、近年、働き方改革等で保護者の働き方も変わってきており、次年度以降の教育施策に反映できるようなデータ分析も非常に大事なポイントかと思うのですが、特認校を申し込まれている方の家庭環境、例えば共働きであるとかそういったデータ分析は行われているのでしょうか。

学務課長 まず、小学校の児童の保護者の就労形態等というのは、学務課から公式に何かお問合せをしているといったことは、特には行っていないところでございます。ただ、学校側からもいろいろお話を聞いている中での勘案ということになってまいります。働き方の変化というのがあることは私どもも重々承知しているところでございますけれども、その中で特に、やはり共働きの世帯の方が増えていらっしゃるという傾向については伺っているところでございます。

また、それについては、この資料2の小学校特認校制度の申込みの数が、令和3年度の時点ですと427人で、それが今年度については357人ということで、70名の減となっているところでございます。子どもの数が増えている中での70名の減ということで、減少傾向にあるというところで申しますと、特に月島地域におけますお子さん方は、特認校には、多くの学校でスクールバスが出ているところでございますが、バスに乗車するまでの間に付き添われる保護者の方が大変多くいらっしゃるところでございます。そのバスに乗せるまでの付添い、またはバスから降りた後の迎えといったような部分が、共働き世帯ですと、特にフルタイムの共働き世帯になってきますとなかなか困難になってくるということは想像できるところでございます。

そうした方々のこの送り迎えの部分で、なかなか子どもたちのフォローがしにくくなっているということをお考えますと、やはり世帯的な部分でいえば、特に月島地域において、共働き世帯が一定の増加を見ているという中で、子どもたちの学校の選択先の変化というものが出ているのではないかと考えている次第でございます。

以上でございます。

小川委員 ありがとうございます。

伊東委員 幼稚園のところなんですけれども、泰明幼稚園の人数が少ないというのがやはり気がかりなところにはなるのですが、泰明小学校もスクールバスは出していなかった小学校かと思うのですが、今後、例えば通園のバスであるとか、特認校へのスクールバスを出していくなど、希望しやすい環境をつくるとい

ったような施策は考えていらっしゃいますでしょうか。

学務課長

まず、泰明小学校・幼稚園における、いわゆるスクールバス、通園のバスといったようなお話でございますけれども、ご指摘のとおり泰明小学校においてはスクールバスというのは出してはおりません。

これにつきましては、まず特認校制度自体を開始した経緯としまして、月島地域の小学校が非常に狭隘化が進行している中で、そうした地域の学校の狭隘化を緩和するための方策として、より児童数の少ない学校へ子どもたちを移しておきたかったという点がございます。

その点に鑑みますと、月島地域からは、こちら泰明小学校の周り、銀座地区におきまして、大変多くの、特に都営のバスを中心として出ているところではございますし、朝夕の登下校の時間帯に重なるような時間帯については、さらに一般の交通車両も相まって、もう大変な混雑、渋滞にも近いような状況となっているところがございます。

そうしたバスを取り巻く環境ですとか、泰明小学校・幼稚園の前の、みゆき通りの部分が大変細い道路でありますので、いわゆるバスを学校前に着けるということが非常に困難であり、かつ止めてしまうと、そこを通ろうとする車の進行も、通行も完全に妨げてしまうという状況にもなります。

そうした点を加味しますと、泰明小学校・幼稚園に向けましてバスを出すというのは、難しいところであろうかなと考えているところがございます。

また、特認校の中には、例えば京橋築地小学校、京橋朝海幼稚園のように併設であるところもございますので、仮に泰明幼稚園のお子さんでも利用できるような形でそうしたスクールバスの関係を出そうとしますと、そうした京橋地域、京橋朝海幼稚園のお子さんの対応を含めました総合的な勘案が必要であろうと考えておりますので、今後も推移は見守ってまいりたいと思っておりますが、現時点で泰明小学校・幼稚園に向けたスクールバスを出すということは予定していないところがございます。

以上でございます。

伊東委員

承知いたしました。今のお話で、当初、月島地区の小学校の定員対策というところもあったということですが、現状の日本橋地区のほうもかなり定員が厳しくなってきているところが出てきているかと存じます。

日本橋地区からですと、城東小学校や京橋築地小学校に何とか通えるのかと思っておりますが、ただ、城東小学校までは向かう道筋がなかったり、また、やはり小さいお子さんで、通学手段が電車しかないですとか、バスも1時間に1本しかないですとか、そういった地域もありますので、その辺りも、今後、検討していただければと思います。

渥美委員

泰明小学校だけではなく、京橋築地小学校にもスクールバスは出していない



と思うのですが、京橋築地小学校は他の特認校に比べると、希望者数がそこまで多くはない印象です。他の特認校にはあるような特色ある取組、力を入れている教科などは何かございますでしょうか。

指導室長 よく特認校とパイロット校が混乱している場合があって、そこを理解しなければいけないと思っております。

まず、特認校につきましては、月島・晴海地区の子どもの増加に伴う学校の狭隘化を防ぐためにできた制度というところもあると思うのですが、パイロット校は、それぞれその学校に特色を持たせ区の方針に基づいて研究してもらっているという学校になります。

委員がおっしゃるとおり、常盤小学校については英語教育、国際理解教育というのを推進しておりますし、城東小学校は理数教育、それから、阪本小学校もICT等に今、力を入れながら行っているところです。

泰明小学校と京橋築地小学校につきましても、学校の中で特色を出していきたいというところについては、特色ある教育として予算取りをしながら支援するところなのですけれども、地域等の理解も得ながら行っていかなければいけないと思っております。

パイロット校以外の学校でも、学校の特色を出していきたいという校長先生もいます。指導室とも連携しながら、この学校が地域と共にこういう学校を目指していきますよというのが確立できれば、予算をつけながら推進できると思います。

以上です。

渥美委員 特認校にパイロット校が加わると、そこに魅力を感じる方も多くいらっしゃると思いますので、京橋築地小学校にもパイロット校や、何か特色ある取組をお考えいただきたいと思います。

指導室長 確かにパイロット校のソフト面の魅力というのはあると思っております。しかしながら、特認校を全てパイロット校化するかどうかということは、慎重に考えていかなければいけないと思います。泰明小学校では、銀座の地域を生かした教育を進めたいという意向もありますし、京橋築地小学校もICTに力を入れていきたいという意向もあります。学校としてPRできるように、区も検討し続けていかなければいけないと思っております。

校長先生ともよく話をしながら、子どもたちが選んでくれる特色ある学校となるよう考えているところです。

渥美委員 ありがとうございます。

小川委員 特認校に、あるテーマを持ってもらってPRするというのは非常に大事なポイントだと思いますし、当初もその両方でやっていながら生徒の分散を図っていくことに一定の効果はあったのだらうと思いますけれど、地元の小

学校も非常に大事なポイントだと思います。地元の小学校も特色ある取組を各学校が行っていますので、その辺りを特認校だけでなく、同様に地元の小学校でもしっかりPRしていただきたいという、これは希望でございます。かなりいい取組もやっておると思いますので、その辺りも含めて、特認校にするのか、地元の小学校にするのかといったところをお選びいただくような施策が必要なんじゃないかならうかと思います。

指導室長 今委員がおっしゃっていただいたところはすごく大切なところで、各学校で、体力向上に向けた取組を行っているとか、例えば中央小学校では、この前、周年行事を見せていただきましたけれども、一輪車を特色にしたりですか、それぞれの各学校が伝統としてやってきたもの、あるいは、校長先生が着任して、ここが課題だからやっていきたいと思う部分を特色にしたりというのがあります。

これは、ソフトの面として、学務課とも連携をしながら、学校選択制、学校の案内にもそういった特色ある教育活動というのをさらにPRできるように考えてまいります。

以上でございます。

小川委員 お願いします。

教育長 ほかにご質問ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

教育長 よろしいでしょうか。

それでは、続きまして(5)について報告願います。

文化・生涯学習課 「令和5年度中央区二十歳のつどいの実施について」について、資料5により報告。

教育長 ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

坂本委員 ご企画ありがとうございます。今まではコロナの影響もあって分割方式でされてきたかと思うのですが、今回からはもう一堂に会してという方向ということで承ってよかったですでしょうか。

文化・生涯学習課 昨年度から一堂に会して実施しているところがございます、今回の実施も同様に実施いたします。

坂本委員 ありがとうございます。よい集いとなることを願っております。よろしく申し上げます。

教育長 ほかにご質問ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

教育長 よろしいでしょうか。

それでは、報告事項(6)について報告願います。

スポーツ課 「第35回「区民スポーツの日」の実施結果について」について、資料6に

より報告。

教育長           それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお伺いしたいと思います。

渥美委員           雨の中の実施で大変だったかと思えます。ありがとうございました。  
今お話の中で、中学生ボランティアのお話があったかと思うのですが、資料の中に記載はありませんが、この場に中学生ボランティアはおられなかったのでしょうか。

スポーツ課長       本来であれば、今回中止となってしまったイベントのほうで中学生は従事していただく予定でしたので、今年行ったマラソン大会ということに関しましては、中学生の協力、従事というのは、結果的に中止となってしまったというところでございます。

渥美委員           晴海総合高校の校庭で実施する予定だったイベントでしょうか。

スポーツ課長       そのとおりでございます。

渥美委員           分かりました。ありがとうございます。

教育長           ほかにご質問ございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

教育長           よろしいでしょうか。

それでは、報告事項(7)について、それぞれ各担当課長から報告願います。

学務課長           「意見・要望」の1件目から3件目について、資料7により報告。

指導室長           「意見・要望」の4件目、5件目について、資料7により報告。

図書文化財課長   「意見・要望」の6件目から9件目について、資料7により報告。

教育長           それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

伊東委員           預かり保育に関連してのところでお伺いしたいのですけれども、全園で預かり保育をするようになったというところで、保育園の利用申込みとの兼ね合いはどのようになっているのでしょうか。

学務課長           現時点で、私ども、まだ保育園の申込み状況ということについては、正確な把握はいたしかねているところでございます。

ただ、窓口でご相談を受けたりですとか、各園でのご対応を含めての中で、一定数の方につきましては、やはり幼稚園で預かり保育があることにより、また開始されることによって、中央区の保育園を探していたけれども、幼稚園に預けることも検討できるというようなお答えいただいたりということもございます。しかし、幼稚園終了時間の都合上、フルタイムの勤務をされている方はなかなか難しいところがあるかなとは考えているところでございますが、パートタイム的な形で就労されている方におかれましては、こうした時間の中でご対応することによって、一定数、保育園の利用を希望されていた方のう

ち、区立幼稚園の利用を検討していただける方も増えているのではないかと考えているところでございます。

以上でございます。

伊東委員 ありがとうございます。現時点では、3園で預かり保育を行っている中で、ほとんど抽選がなかったということだったのですけれども、もともと保育園に入れていて、フルタイムに近い形の方で預かり保育を希望していた方が幼稚園に移ることによって、思っている以上に預かり保育の枠が必要になってくるといったようなことも起こるかもしれませんので、もしそういった場合には柔軟にご対応いただければと思います。

学務課長 ただいまの委員のご懸念のお話につきましては、私どもも同様に捉えています。こうした預かり保育ですとか、弁当給食を全園で展開することによって、これまでの幼稚園にお申込みいただいた方々とは若干異なるような方々が幼稚園にお申込みされるということは、十分想定しているところでございます。

その辺り、幼稚園の預かり保育の利用が大変多い、利用率が高いというような状況がある程度見られる場合については、区長部局と連携して、例えば定員枠の問題ですとかを含めて検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

伊東委員 よろしく願いいたします。

渥美委員 今の話の続きなのですが、回答のところに、「保育枠は現時点で想定される数を準備しています」とありますが、もし想定していたよりも多くの申込みがあつて預かり保育に漏れてしまった場合は、保育園に回るのでしょうか。

学務課長 こちらの保育枠というのは、あくまでも預かり保育の枠ということになりますので、幼稚園に入っていた方しか、その園での預かり保育というのは利用はできないところでございます。私どもが行いますこの幼稚園型預かり保育というのは、制度的にまさにそうした形で、在園児のみが対象となる預かり保育になっております。ですので、基本的に現在の利用率ですとかに鑑みましても、十分な枠は設定されているということで認識しているところでございますが、あまりに預かり保育の利用率が非常に高いと、我々が想定していたより高かったということでありましたら、また現状を踏まえながら対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

渥美委員 懸念しているのは、預かり保育を全園で実施し、想定していたよりも希望が多かった際に、結局預かり保育が叶わずに、保育園に流れてしまうというような事態が起こらないかどうかなのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

学務課長 ただいまのお話につきましては、私ども、今回、この幼稚園における預かり保育というのを考えました際に、非常に留意しました点としまして、教育委員

会や区長部局ともに、機能的な重複を回避したいというところがございます。と申しますのは、区立保育園におきましても、今現在、定員の空きが生じてきているような状況でございます。

仮に、毎日安定して就労などの理由により保育を希望するといった方の場合は、まさにそうした方々のために保育所というものは用意されているところがございますので、安定した保育をご希望される方については、区立の保育所も今、定員枠があるような状況でございますから、そちらを利用していただきたいということで考えてございます。

以上でございます。

渥美委員 現在保育園に通わせている方の中でも、就労の関係でやむを得ず通わせている方もいらっしゃると思うのですが、預かり保育もお弁当給食も実施することと、新たに幼稚園を希望する方も増えると思います。「想定される数」というのは具体的にどういった想定をして抽出した数なのでしょう。

学務課長 預かり保育につきまして、想定の部分とすると、現在の3園におきます利用率というのが、おおむね6割程度でございます。要は定員30のうちの6割ということでございますので、毎日考えますと18人程度前後の利用があるというような状況でございます。

そうした中で考えますと、今回、預かり保育を行うに当たっては、基本的に専用のスペースがまず必要になってきます。幼稚園において、小学校のスペースとの兼ね合いもあったりするなどしますので、幼稚園におけます預かり保育室のスペースというのが、実はそれほど潤沢にはございません。提供できるスペースとして1部屋あるか、場合によっては遊戯室も預かり保育のために使わないといけない、そうしたような状況を我々、現状を把握しながら、こうしたスペースを1人当たり1.98平米という法的基準がございますので、そうしたものも加味しながら定員設定をしていきまして、基本的に定員を今回、今、20人と30人と分けているところがございますけども、先ほど申し上げた6割の利用率の中で勘案した際に、定員が、幼稚園の園児数という部分で申しますと、66人ないし67人以下の方々であれば、実際の預かり保育の数として見ている部分が30人を割ってくるようになりますので、そうした園については、20人で設定をしということで、今回、定員設定を行ったところがございます。

今、3園で行っている預かり保育の利用率というのがおおむね6割前後という状況でございますので、これを全園に展開すれば、今、預かり保育を使いたいがために、通園先を変更して当該3園に申込みをして実際に通われている方々がいらっしゃいますので、それが地元の園に戻るができるようになる。また、同じような考えを持っている方々は、その3園に集中するのでは

なく、地元の園に通うことができるということになれば、利用ニーズの一定程度の均質化を図ることができるものと考えております。そうした点を踏まえて、私ども、こうした利用件数の想定というのをやっているというところがございます。

以上でございます。

渥美委員

ありがとうございました。

伊東委員

図書館の、本の森ちゅうおうの自転車の件なんですが、前にも同じような駐輪場の問題が出ていたかと思うのですが、今、中央区内、あちこちのレンタサイクルなどがよく使われているように見受けられるんですが、レンタサイクルのステーションを本の森ちゅうおう、もしくはその近隣に配置するといったようなことは計画されているのでしょうか。

図書館文化財課長

本の森ちゅうおうの自転車駐輪場の手前にレンタサイクルのスペースを設けておりまして、実際にレンタサイクルをご利用されている方もいらっしゃるものと考えております。

以上です。

伊東委員

ありがとうございます。

教育長

ほかにご質問ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

教育長

よろしいでしょうか。

それでは、本日の日程は終了いたしますが、委員の皆様からご意見等ございましたらお伺いしたいと思います。

伊東委員

10月24日、25日で、奈良県と京都府の学校、幼稚園を視察させていただきましたので、その振り返りと、感想を述べさせていただければと思います。

まず、24日の日に、奈良県奈良市立登美ヶ丘中学校を視察させていただきました。こちらでは、中学校3年生のクラスのオンライン英会話の授業を見させていただきました。3名に1名の英語講師がつく形での、グループでのオンライン英会話というのを視察させていただきました。

イメージとしてはオンライン英会話は1対1がよいのかなと思っていたのですが、3対1、中学校2年生・1年生は4対1というお話でしたが、そういったある程度のグループでの英会話というのも、グループ内で、言葉が詰まってしまったお友達に対してうまく助け船を出してみたりとか、みんなが会話できるようにいろいろ工夫がなされていて、大変勉強になりました。

オンラインの時間としては25分間ということでもかなり短く感じていたのですが、実際に拝見していると、その中で5分から10分程度、グループによって違ったと思うのですが、フリーに会話ができる時間というのがあって、いろいろと楽しい話、好きなアニメ映画の話とかをしていて、この辺り

は、もし中央区でも導入できるとよいのかなと、オンラインの形にするのか、そうでないのかはまた別ですけれども、フリーに会話ができるというのは非常によいなと思って拝見させていただきました。

25日は、京都府京都市立中京もえぎ幼稚園を、幼保小の連結、幼保小の接続プログラムというところで拝見させていただいたんですけれども、それこそ先ほど幼稚園と保育園との問題というところで話が出ましたが、京都市立の幼稚園の試みとして、幼稚園が主体となって近隣の保育園と連携し、小学校に入学するときに身につけておきたい力を、幼稚園だけでなく保育園も幼稚園をお手本として均一化していき、小学校の1年生に入学した子どもたちが抱える問題の差が大きくなるようにするという意味で、非常によい試みだなと思いました。

中央区の場合は私立幼稚園というものがほとんどなく、公立幼稚園が中心となって、さらに、区立の小規模保育園をたくさん抱えている地域になりますので、1学年1人とか2人しかいない保育園もありますし、かと思えば、100人を超える幼稚園も出てくるという中で、小学校1年生に入学する際に、子どもたちが出来る限り足並みが揃った状態で入学するための1つの良いやり方だと思って拝見しておりました。こういったところも、今後、行政の中で生かしていただければと思いました。

以上になります。

教育長

ありがとうございました。

ほかにご意見等はございますでしょうか。

小川委員

感想なのですが、幼稚園設立の背景が京都市と中央区とでは違っているところではあるのですが、京都市の地元の方が幼稚園、学校に対して、非常に協力的というか、地域として良くしていくんだという思いが非常に強いなというところは感じたところでございました。ああいった取組というのは、学校だけの取組ではなく、エリアとしてどう考えていくのかということだと思うので、本区においても非常に参考になると強く思っておりますので、一言述べさせてもらいました。

教育長

ありがとうございました。

ほかにはよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

教育長

よろしいでしょうか。

それでは、ほかにご意見もないということでございますので、本日の委員会はこれにて閉会といたします。長時間ありがとうございました。

午後3時07分 教育長閉会宣言  
署名委員